

平成 27 年 7 月 9 日

ESV2015 国際会議およびグローバル NCAP 会合に関する報告について
(6 月 8 日～11 日@スウェーデン・イエテボリ)

1. 背景と目的

ESV (Enhanced Safety of Vehicles) 国際会議は、米国政府の提唱により、安全な自動車の世界的な普及促進による事故防止を目的に、世界各国の関係機関、自動車メーカーの技術者が集まり、様々な情報交換を行う場として隔年で開催されている。前回 2013 年は韓国・ソウルで開催され、今回はスウェーデン政府がホストで、イエテボリでの開催となった。

合わせてグローバル NCAP 会合が開催され、各国・地域の最新の取り組みの報告等が行われる。JNCAP においては、アセスメント評価検討会委員、JARI、NASVA 等で連携し参加・対応し、今後のアセスメントの取り組みの参考となる情報収集や各 NCAP 機関との連携強化に努めている。

また ESV 会議における複数のテクニカルセッションの中で、NCAP が中心となるセッション [Consumer information Approaches To Improve Global Safety] が、ジーク議長 (EuroNCAP 前議長)、ワード副議長 (GNCAP 事務局長) の下で開かれ、米国 NHTSA、IIHS、Euro-NCAP 等の様々な関係機関から研究等について発表がされた。

今回、関係 26 カ国から参加者が 856 名となり、次回 2017 年は米国デトロイトでの開催となった。

2. 報告概要 (NCAP 関連事項)

(1) オープニングセレモニー等

① オープニングセレモニー

- ・スウェーデン建築・企業・イノベーション大臣より、ホスト国として開催の挨拶があった。(先進安全技術のために作られた試験施設として Asta-ZERO について紹介。またスウェーデンでは、交通事故撲滅のためのプロジェクト Vision-ZERO が 1997 年に開始され、2017 年にはイエテボリにおいて、Volvo 車両 100 台を使った自動運転車両の走行計画があると発表。)
- ・米国運輸省高速道路交通安全庁 (NHTSA) 長官より、主催者として ESV 会議の主旨について挨拶があった。(自動車事故削減のため、政府だけでなく、様々な関係者が協力することが必要であり、メーカー、サプライヤー、政府関連機関、そして国境を越えた取り組みのため ESV 会議を開催していると説明。)



(スウェーデン: アンナ大臣)



(米国: ロズカインド長官)

②表彰式（NHTSA アワード）

交通安全の促進への多大な貢献、リーダーシップを発揮した人として5人、エンジニア関係で7人が米国 NHTSA から表彰された。

前者として、日本における NCAP の促進、予防安全アセスメントが開始された結果、多くの車種がアセスメント評価の対象となり、ユーザーへの情報提供が行われたことが評価され、JNCAP アセスメント評価検討会の宇治橋座長が受賞した。



（NHTSA 長官より表彰を受ける宇治橋座長）

③ガバメントフォーカルポイント（各国政府が最新の取組と目標について説明）

・日本（斧田国交省技術政策課国際室長）

（国の死亡者数削減の目標に向けて、法規、ASVプロジェクト、NCAP を組み合わせた取り組みを説明。さらに SIP プログラムにより自動運転に向けた取り組みを国内で進めて、WP29 では ITS/自動運転のインフォーマルグループを立ち上げて国際的なイニシアチブを取って進めていると説明。）

・米国（NHTSA）

（死者数は 32,719 人（2013 年）で、自動車数当たりでは減少しているが、絶対数では 1950 年の 30,246 人よりも増えている厳しい状況。様々な施策を進めていく必要があり、消費者への安全情報（NCAP）も促進させる。安全法規は NCAP をキャッチアップしていく。2015 年は、新しいテストダミーと衝突試験の方針を決定する。AEB 試験法、運転手の不注意対策、スマートフォンに関するガイドラインを作成する。）

④プレナリーセッション「Traffic Safety Through Integrated Technology」

（パネレーター：NHTSA 長官、スウェーデン運輸省局長、トヨタ葛巻氏他）

- ・モデレーターから、消費者への情報提供として NCAP が機能しているが、日本では先進安全技術も積極的に評価されていることについてどう考えているかとの質問に、トヨタ葛巻氏から「ユーザーにとって、とてもわかりやすい取り組みである。今後、車側だけでなく、歩行者と車の相互情報交換などの技術をどう評価するかが課題となる」との回答があった。



（プレナリーセッションの様子）

（2）ESV テクニカルセッション関係

[Consumer Information Approaches To Improve Global Safety]

- ・EuroNCAP、U. S. NCAP 等の諸外国 NCAP 関連機関より、アセスメントに関する最新の

取組についてプレゼンがなされた。NASVAからは、「JNCAPにおける予防安全性能アセスメントの実施結果と今後について」の報告論文を提出した。なお会議最終日には、投票結果を基に整理した結果、本セッションが出席者数並びに評価が最も高かったと発表され、NCAPに関する関係者の関心の高さが示された。



(左：議長ジーク氏/ 右：副議長ワード氏)

(3) グローバル NCAP 会合・NCAP 関係機関

① グローバル NCAP 会合

- ・ 米国政府からロズカインド NHTSA 長官、パスカル女史（政策・戦略責任者）の参加、韓国国交省からキムヨンセオ自動車政策局長が参加された。ロズカインド長官から冒頭に、「NCAP が米国で開始された事業で、今のグローバルな展開を誇りに思うとともに、米国でも自動車の安全という点での重要な施策として今後も IIHS と連携を保ちながら、積極的に進めていきたい。また本件は運輸大臣にも説明しており、大変興味を持っている」との説明があった。
- ・ JNCAP の説明に関連して、ロズカインド長官を始め、ワード事務局長、ANCAP、KNCAP から、ロードマップなどの資料提供について感謝の意が示された。
- ・ 本年度の GNCAP 年次会合については、11 月 15 日～17 日でブラジルの首都ブラジリアにおいて開催し、その後 18 日、19 日に開催される運輸交通大臣のハイレベル会合（2009 年のロシア会合に次ぐ第 2 回目）、自動車安全の特別セッションと連携していくとの説明があった。
- ・ 各 NCAP から、最新の活動と今後の目標について説明があった。JNCAP からはプレゼン資料に基づき最新の活動について報告して、合わせて参考資料を配布した。（参考資料：試験法・評価法の英文版、後方視界情報提供装置の評価に関する概要の英文版、JNCAP2015 ロードマップの概要の英文版等）
- ・ プレゼンに関連して、ANCAP のマッキントッシュ議長から、NASVA と交通事故被害者との連携活動について興味を示され、その関係について質問があった。
- ・ AEBS 対歩行者について、夜間試験をどう行うかが大きな課題との説明に対して、EuroNCAP のジーク氏と UTAC（フランスの研究機関）のガスタン氏から、情報提供と協力の提案があった。



② GNCAP

- ・ GNCAP と EuroNCAP の合同ブースに、JNCAP 2014 年度結果の衝突アセスメントの詳細ガイドブック（英文版）と予防アセスメント（英文版）のリーフレットを置かせてもらったところ、それぞれ約 50 部、100 部が全て配布できた。



(GNCAP・EuroNCAP 合同ブースの様子)



(JNCAP のリーフレットを配付)

③ANCAP

- ・クラーク技術担当責任者から、JNCAP と ANCAP の中長期的な連携について議論していきたいとの提案があった。(特に AEBS の試験結果を ANCAP としては活用したいとのこと。)

(4) その他

Technical demos & Technical Visits : Asta-Zero

- ・ESV 会議のテクニカルツアーとして、政府をはじめとして関係機関によって設立された Asta-Zero (世界で初めてのアクティブセーフティ専用の総合テスト施設) の見学会が実施された。様々な事故を模擬するための高速道路、模擬市街、郊外道路などの各種施設の他、大型トラックの後退時や乗用車の高速道における自動操舵システムのデモ、バルーンと実車を用いた交差点右折時の衝突回避デモ等が行われた。



(自動操舵車両デモ)



(AEBS のデモ)



(バルーンと実車のデモ)

以上